

令和8年度 倉敷市健康増進計画・食育推進計画審議会議事録

開催日時	令和8年7月2日（木）午後2時00分から午後4時00分
開催場所	倉敷市保健所 201・202研修室
出席者	○出席委員（19名） 脇本会長、浪尾副会長、藤澤委員、北野委員、三宅委員、藤原委員、久本委員、角田委員、岡部委員、勇委員、高橋委員、早川委員、中濱委員、小林委員、山本委員、兒山委員、太田委員、小池委員、福田委員 ※欠席委員（1名） 田野委員 ○事務局 倉敷市保健所 種本所長、佐藤参事 健康づくり課 森川課長、藤原課長代理、末澤係長、中村主幹、乙倉主任、中澤主任、小川主任、塩田副主任、村中副主任、伊藤栄養士、島尾歯科衛生士 倉敷保健推進室 柴山室長 児島保健推進室 角南室長 玉島保健推進室 平田室長 真備保健推進室 吾郷室長 水島保健推進室 石原室長 健康長寿課地域包括ケア推進室 原田主幹 農林水産課 武課長主幹 保健体育課 佐々木副主任
傍聴者	0名
報道機関	株式会社 山陽新聞社
次第	1 開 会 2 議 事 （1）倉敷市健康増進計画・食育推進計画「くらしき健幸プラン」について （2）令和7年度事業報告について （3）令和8年度事業計画（案）について （4）その他・情報提供 3 閉会

1 開会

事務局

それでは、定刻がまいりますので、会議を始めさせていただきます。私は、本日の司会進行を務めさせていただきます保健所健康づくり課の藤原でございます。よろしくお願いいたします。本日の出席委員数は19名で、委員総数の半数以上の出席がありますので、倉敷市健康増進計画・食育推進計画審議会条例第5条第2項の規定により、会議が成立することをまず御報告申し上げます。

また、本審議会は公開となっております。本日、傍聴の方は来られていませんが、報道機関の方が一社来られております。

それでは、令和8年度倉敷市健康増進計画・食育推進計画の開会にあたりまして、倉敷市保健所所長種本より御挨拶申し上げます。

事務局

皆様、こんにちは。保健所長の種本でございます。本日はお忙しい中、また蒸し暑い中、令和8年度倉敷市健康増進計画・食育推進計画審議会に御出席いただき、誠にありがとうございます。皆様方におかれましては、平素より倉敷市の健康増進計画と食育推進計画となります「くらしき健幸プラン」の推進につきまして、それぞれの立場から御協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

さて、この「くらしき健幸プラン」は、「みんなでつくる元気なくらしき～誰一人取り残さない健康づくり～」を基本理念に掲げ、お一人お一人の健康づくりとともに、それを支える地域の環境づくりを推進しております。国の示す社会環境の質向上の考え方を踏まえ、本計画のもと、倉敷市における健康づくり施策を総合的かつ効果的に推進してまいりたいと考えております。計画の推進にあたりましては、毎年本審議会において事業計画の策定と評価を皆様とともに行うことで、より効果的に地域に健康づくりや食育の輪が広がる事業展開となることを重視しております。

個人的には、この計画の推進の中で少し遅れていると感じるのが、やはり喫煙対策です。本計画策定時の成人の喫煙率は12.9%でした。全国の最新データは14.8%ですので、全国よりは若干低いのですが、この計画の中間評価である令和12年度には6%まで下げるといふ、非常に意欲的な目標を立てております。このままではなかなか達成が難しいのではないかと危惧しているところです。

今朝、出勤時にコンビニに寄った際、少し驚く場面を見かけました。明らかに臨月の妊婦さんがタバコを購入されていたのです。非常に衝撃的でした。妊婦の喫煙率は倉敷では2.2%です。当然、これは0%でなければなりません。生まれる前から、本人の意思に関わらず強烈なニコチンの曝露や受動喫煙をさせられる赤ん坊を守ることも、行政の大きな仕事だと思っております。是非とも皆様のお力もお借りしたいと考えております。

本日は、本計画を効果的に推進するために、地域においてどのような活動展開が必要であるかなど、ぜひ、委員の皆様それぞれの立場から忌憚のない御意見をいただきたいと思っております。最後になりますが、今後とも本計画の推進について、皆様方の御支援、御協力をお願い申し上げまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。

事務局

それでは、配布資料の確認をさせていただきます。お手元の資料を御覧ください。

(資料の確認)

続きまして、委嘱状の交付についてですが、本日は進行上、委嘱状を皆様のお席に置かせていただいておりますので、御確認ください。

それでは、委員の御紹介をさせていただきます。お手元にあります会議次第の裏面を御覧ください。こちらの名簿順に私の方から御紹介いたします。

(名簿順に読み上げ、紹介)

続きまして、事務局の職員の紹介させていただきます。

(事務局職員の紹介)

続きまして、庁内関係部署の職員の紹介をいたします。

(健康長寿課地域包括ケア推進室、農林水産課、保健体育課の順に紹介)

以上でございます。

それでは、会長及び副会長の選出に移りたいと思います。お手元にあります倉敷市健康増進計画・食育推進計画審議会条例を御覧ください。第3条4項により、委員の任期は2年、同第4条第1項に会長及び副会長各1名を置き、委員の互選によってこれを定めると規定されております。

会長1名、副会長1名を委員の皆様方の推薦によりお願いしたいと思います。では、はじめに会長の推薦をお願いします。

委員

多くの委員が交替しておりますので、もし事務局案があれば、御提示いただけないでしょうか。

事務局

ただいま事務局案を、との声をいただきました。事務局案としましては、会長に脇本委員、副会長に浪尾委員を推薦いたします。皆様いかがでしょうか。

(拍手)

ありがとうございます。それでは、本審議会の会長は脇本委員、副会長は浪尾委員にお願いしたいと思います。それでは、脇本会長、浪尾副会長、前の席にお移りください。

(会長・副会長席へ移動)

それでは、脇本会長、浪尾副会長より一言ずつ、御挨拶をお願いいたします。

会長

ただいま会長に推薦いただきました脇本と申します。よろしくお願いいたします。はなはだ力不足かと思いますが、この健康増進計画・食育推進計画の推進に向けて、委員の皆様のお力添えをいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

副会長

倉敷市食品衛生協会代表の浪尾と申します。よろしくお願いします。

事務局

これより議事に移るにあたり、司会進行を脇本会長にお願いしたいと思います。それでは会長、よろしくお願いいたします。

2 議事

会長

それでは会議次第に従いまして議事を進めて参ります。よろしくお願いいたします。御発言の際はマイクを使用してください。最初にお名前をおっしゃっていただきから御発言いただきますようお願いいたします。活発な御意見をいただいて、議事の円滑な進行に御協力をお願いしたいと思います。本日の議事はスライドのとおりとなっております。

それでは議事(1)倉敷市健康増進計画・食育推進計画「くらしき健幸プラン」について、事務局から御説明をお願いいたします。

事務局

それでは、まず倉敷市健康増進計画・食育推進計画「くらしき健幸プラン」について、御説明いたします。スライドを御覧ください。

「くらしき健幸プラン」の名称は、健康の「こう」の字を「幸」にすることで、体の健康だけでなく、人々が幸せで満足している状態を表しています。この計画を通じて、倉敷市民一人ひとりが健康で豊かな生活につながるよう推進していきます。

本計画は、健康増進計画と食育推進計画を令和6年3月に一体化し、策定いたしました。「みんなでつくる 元氣なくらしき～誰ひとり取り残さない健康づくり～」を理念とし、「健康寿命の延伸」「健康格差の縮小」「食を通じた豊かな生活の実現」の3つを基本目標としています。

倉敷市の健康課題である糖尿病・高血圧症等の予防のため、「健康管理」「運動」「休養」「たばこ」「飲酒」「歯・口」「食育」の7分野での健康づくりと「地域の環境づくり」を進め、あらゆる世代の切れ目ない健康づくりに取り組みます。

本計画においては、学識経験者、関係機関、関連団体、公募の市民によって構成される本審議会において進行管理、評価に関する審議を毎年行います。

推進体制としては、愛育委員会や栄養改善協議会などの関連団体と市民、各保健推進室等で構成される地区推進会議を市内5地区に設置し、各地区の現状や目標を共有し、それぞれの強みを活かした健康づくり活動を展開します。地区推進会議からの市民の声は、事業評価や新たな事業に活かします。さらに、市役所内の関係部署とも連携し、健康づくりを支える環境整備を進めます。

計画の基本目標となっている健康寿命です。倉敷市では、介護保険の要介護度1の方までを“健康”と定義した平均自立期間を健康寿命と定義しています。過去5年間で倉敷市の健康寿命と平均寿命はほぼ横ばいとなっています。

こちらは、国民健康保険特定健診の受診結果のうち、市の健康課題である糖尿病に関連した HbA1c の有所見者いわゆる正常値から外れている人の割合のグラフです。令和元年度の国を基準として、経年的に有所見者の割合がどのように推移しているかをみると、国と比較して男女とも経年的に高く推移していることがわかります。

同じく市の健康課題である高血圧症に関連した収縮期血圧の有所見者の推移をみると、収縮期血圧も、正常値から外れている人の割合が、国と比較して男女とも経年的に高く推移していることがわかります。

第二次倉敷市健康増進計画及び第二次食育推進計画の最終評価と倉敷市の現状から、スライドの①～⑤を倉敷市の健康課題として、「くらしき健幸プラン」を推進し

ております。

計画を推進するため3つの主な取り組みを説明いたします。1つ目は「ライフコースアプローチとライフステージ」の視点をもった取り組みです。現在の健康状態は過去の生活習慣や社会環境に影響され、さらに次世代の健康にも影響を及ぼします。一方で、乳幼児期から高齢期までの各ライフステージには、特有の健康課題があります。そのため、人の生涯を切れ目なく経時的に捉え、将来を見据えたライフコースアプローチと、ライフステージの視点をもった健康づくりの取り組みの両方を推進していきます。

取り組みの2つ目は、健康づくりを支える地域の環境づくりです。自ら健康づくりに積極的に取り組む人だけではなく、健康に関心の向きにくい人を含む、幅広い人が健康づくりに取り組むことができる環境の整備を行うことが重要です。環境づくりの推進に向けて、「自然に健康になれる環境づくり」、「持続可能な食を支える環境づくり」、「人と人・人と社会をつなぐ地域づくり」、の3つの環境づくりに取り組みます。

取り組みの3つ目となります。「くらしき健幸プラン」では、一人ひとりの健康づくりに向けて7つの分野で取り組みます。それぞれの分野にあるべき姿を設定し、糖尿病や高血圧症予防のため、分野同士を連動させながら、健康づくりを推進します。以上が「くらしき健幸プラン」の概要となります。詳細につきましては、倉敷市健康増進計画・食育推進計画「くらしき健幸プラン」冊子を御覧ください。

会長

ありがとうございました。委員の皆様から「くらしき健幸プラン」について、何か御質問、御意見がございましたら、伺いたいと思います。いかがでしょうか。

委員

連合医師会です。糖尿病、高血圧症が課題であることは分かるのですが、脂質異常症についてはあまり触れられていないようです。脂質異常症は十分だということでしょうか。

事務局

御質問ありがとうございます。国保特定健診の結果を見ますと、脂質異常症のうちLDL コレステロールの有所見者については今お示ししている2つの検査項目に比べ、国や岡山県と比較して、差は見受けられませんでした。HDL コレステロールについては、少し国に比べて有所見者が多い状況にはありますが、糖尿病や高血圧症に関連する項目に比べると値が低く、まずは糖尿病や高血圧症対策を優先すべきと考えております。

会長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

それでは議事を進めさせていただきます。議事(2)令和7年度事業報告について、事務局から御説明をお願いいたします。

事務局

議事2「くらしき健幸プラン」の令和7年度の事業報告をさせていただきます。令和7年度の事業計画はスライドのとおりとなります。抜粋して報告させていただきます。

ライフコースアプローチとライフステージの視点をもった取り組みとしては、「くらしき

「健幸プラン」に即したライフコースアプローチを意識できる内容とした健幸サポート講座を新たに開始しました。様々な地域の関連団体の元へ出向いて実施し、前年度の出前講座と比べて、若い世代に多く実施することができました。また、子育て支援拠点でのイベント、中学校や高校、大学の授業や文化祭などの機会を活用し、ライフコースアプローチを意識した啓発を行いました。さらに、高齢期の転倒予防を目的に、若い頃からの足の健康の重要性について、健康長寿課と協働して啓発媒体を作成するとともに、商業施設など様々な場所で足指力測定体験を実施し、2,000人以上の方に体験いただきました。今後も、ライフコースアプローチを意識し、関連団体との協働により、啓発の場をさらに拡大していく必要があります。

若い世代や健康づくりに関心の向きにくい層に対する ICT を活用した啓発の強化としましては、市健康づくり公式 SNS として、Instagram と Facebook を保健所、各保健推進室共通で運用しております。投稿件数を増やすだけでなく、若い世代の利用者が多い Instagram、働き世代の利用者が多い Facebook を連携し、同じ内容を同時投稿することにより、効果的に情報発信を行いました。フォロワー数増加のため、動画を多用し、それぞれの所属で統一感のある投稿を意識しました。また、3ベジ推進店キャンペーンでは、共同編集者として、推進店の Instagram アカウントで3ベジ推進店キャンペーンを投稿していただくことで、市健康づくり公式フォロワー以外の閲覧数の増加につながりました。

健康づくりを支える地域の環境づくりの推進に向けた取り組みのうち、「自然に健康になれる環境づくり」の主な内容としては、昨年度の審議会で御報告させていただきましたくらしき健幸アプリでございます。令和7年度末時点でアプリの登録者数は8,000人を超え、令和6年度末の登録者数と比べて1.5倍増加しました。審議会委員の方々につきましてもアプリの周知に御協力いただき、ありがとうございました。アプリを利用されている方の平均歩数を見ると、アプリ開始後、ゆるやかではございますが増加しており、特に令和8年1～3月においてはアプリ開始時の令和7年の同時期と比べて約600歩増加していることが分かりました。このことから、多くの方にアプリを利用していただくことで、倉敷市民の歩数の増加につながると考えられます。特に、運動習慣者の割合が少ない30～50代を中心に、健康づくりに関心の向きにくい方の利用者数が増加するよう、職域を含めた関連団体、関係部署との連携による周知強化が必要と考えます。

自然に健康になれる食環境づくりであるくらしき3ベジプロジェクトの推進として、令和6年度に引き続き3ベジ推進店キャンペーンを実施しました。3ベジとは、食事の最初に野菜を食べる「ベジわん」、食事をゆっくりよくかんで食べる「ベジもぐ」、野菜を1日350g以上もりもり食べる「ベジもり」の3つの野菜の食べ方を意味したキャッチフレーズです。3ベジ推進店が、野菜の効果的な食べ方の重要性を理解し、3ベジに沿ったメニューを提供することで、飲食店利用者が意識しなくても3ベジが実践できる環境をつくります。利用者が対象メニューを注文したくなる動機づけとして、対象メニューの注文により、抽選券を配布し、くらしき食育フェアで特産品が当たる抽選会を行いました。令和7年度も、食品衛生協会と連携し事業を進めることができました。また、食育フェアの会場であるアリオ倉敷内のチェーン店とつながることができ、3ベジメニ

ューの提供数が令和6年度の約2倍に増えました。多くの方が3ベジメニューを実際に食べ、3ベジについて知っていただく機会となりました。

市内の食育関連団体や市役所内関係部署と協働し、若い世代や健康に関心の向きにくい層を対象に、商業地で気軽に参加できる食育イベントを実施しました。このイベントは、参加団体が「くらしき健幸プラン」の食育分野を理解し、団体それぞれの強みを活かして、市民へアプローチすることを目的としています。令和6年度に引き続き、食育栄養まつりとの合同開催を行い、食育分野の指標に沿ったブース企画により一体感のあるイベントとなりました。アンケート結果から、イベント目当てではない層や10歳未満から40代までの幅広い年齢層、特に子育て世代に食育や健康づくりへの意識づけができたと考えます。

環境づくりのうち、人と人・人と社会をつなぐ地域づくりについては、各地区推進会議の取り組みを各保健推進室から御報告いたします。はじめに、倉敷地区の報告を、倉敷保健推進室からお願いします。

事務局

倉敷地区推進会議の「健康づくりの輪を広げよう会」は、愛育委員会、栄養改善協議会、心ほっとサポーター、つきいち会の代表が集まり、ライフコースアプローチを意識し、各団体の強みを活かした活動の企画・検討をする代表者会と、あらゆる世代を対象にした啓発・働きかけを行う全体会で構成しています。令和5年度から“腸活”を切り口に推進を続けており、7年度は課題である若い世代へのアプローチとして、赤ちゃんサロンでの腸活・脳腸関連の講話、地域の親子の集まりの場での腸活レシピの調理実習を通しての啓発、Instagram を活用した啓発などを展開しました。全体会では、看護師で腸アドバイザーの先生から「腸から元気に！こどもから大人まで守る腸のお話」をテーマに、日頃から取り組める食事や生活習慣など、腸の役割を意識した健康づくりの知識を深めました。講話を受けてのグループワークでは、新たな啓発の視点や、他団体と協働して取り組んでみたいアイデアを出し合い、参加者のモチベーション向上にもつながりました。今年度も“腸活”を切り口とした取り組みを継続し、昨年度に検討した、協働した取り組みのアイデアの実践を目指し、新たな協働組織団体の発掘、互いの活動の理解と連携を大切に、各団体の強みを活かした活動を展開し、健康づくりの輪をより地域に広げていきたいと考えております。

続きまして、児島地区の報告を児島保健推進室お願いします。

事務局

児島地区の推進会議メンバーは、愛育委員会、栄養改善協議会、心ほっとサポーター、地区社協、コミュニティ協議会、自治会の計10名です。令和7年度の全体会では、幼少期からの食育を切り口に情報提供と講話、地域での取り組みについてグループワークを実施いたしました。当日は67名の出席があり、地域の団体組織が顔を合わせ、地域住民全体の健康づくりの大切さを再認識する機会となりました。企画会議での、主な活動としては、3ベジランチョンシートを児島版3ベジ食育シートに改編し、健康まつり・親子クラブオープンデー・ウォーキング大会などで幅広い世代への普及啓発を実施しました。今年度は、運動分野や食育分野への取り組みを継続しつつ、3ベジ紙芝居を完成させ、「くらしき健幸プラン」7分野を連動させながら、幅広い

世代に普及啓発していきます。また、全体会で話し合った健康づくりの取り組みや思いが地域全域に波及できるよう、地区組織や小学校など、地域の団体組織との協働を意識した活動を検討していきます。続きまして、玉島保健推進室をお願いします。

事務局

玉島地区は、人口約70,100人、高齢化率は、29.9%と年々人口は減少し、高齢化が進んでいる地域です。玉島地区の推進会議は、平成24年度設立以降、医師会・歯科医師会・薬剤師会・商工会議所青年部を含む地元のメディアやスポーツクラブ、地区組織や推進会議OBである絆メンバーなど11団体と活動しています。令和3年度の話し合いから「こどもがいる保護者が糖分や塩分の適正量を理解できるようになる」という目標に向けて、令和4年度から2歳児歯科健診受診後の保護者に対し、血圧、血流、体組成、ベジチェックなどの測定体験及び高血圧・糖尿病予防の啓発を行っています。令和7年度からは「ファミリーで糖分や塩分への理解を深めよう」をテーマに、糖分・塩分に関する啓発と保護者を対象に測定体験や生活習慣に関するアンケートを実施し、その結果を市健康づくり公式Instagramに掲載しています。啓発の中で保護者から「測定体験を通して自分の生活習慣を振り返ることができた」「減塩食品がこんなにあるとは知らなかった」という声が聞かれ、健康的な生活習慣を考える機会となったり、推進会議メンバーからは「保護者によって健康意識の高い人と低い人がおり、継続して若い世代への啓発が必要」「子育て世代が生活の中でできる健康づくりを啓発していきたい」と今後の活動意欲につながっています。今後、参加メンバーの所属を通じた地域への波及やその特徴を生かした啓発について検討し、住民の視点で、住民から住民へ伝える健康づくりを継続できるよう働きかけていきたいと思います。続きまして、真備地区の報告を真備保健推進室をお願いします。

事務局

真備地区です。「まびを健幸にしよう会」は、例年企画会議3回、推進会議1回実施しています。企画会議は、愛育委員、栄養委員、心ほっとサポーター、地域子育て支援センターと協働で、真備・船穂総おどりにおいて、子育て世代への啓発を狙い、各組織団体の得意分野と“睡眠”を絡めて啓発の企画・実施をしました。そのアンケートで、睡眠に満足している人は69%、特に50代で満足度が低かったです。1回30分、週2日以上運動している人は60.2%、30～40代では運動習慣がありませんでした。朝食を食べている人は86%。高校生～40代までは欠食が目立つ結果となっています。朝食摂取の有無と排便の関係性は見られないという結果が得られました。推進会議は19機関の参加があり、“睡眠”を切り口に「睡眠と健康～睡眠から考える生活習慣～」の講話、グループワークで感想や各団体・所属でできそうな取り組みを検討、共有することができ、実際に心ほっとサポーター主催のサロン活動の中で会議の内容を活かした啓発を実施するなど、地域への広がりもありました。令和8年度も、まびを健幸にしよう会として効果的に健康づくりの輪を広げていくために、“睡眠”を切り口とした健康づくりが地域へ幅広く広がるよう引き続き進めていきます。今年も7月18日に真備・船穂総おどりがありますので、ぜひ皆様、お越しください。続きまして、水島地区の報告を水島保健推進室をお願いします。

事務局

水島地区推進会議は、「ひろめ隊」という名称で、知識をひろめる、活動をひろめることを目標としています。参加団体は、こどもから高齢者まで全世代にアプローチできる団体が参加し、地域に根差した活動を行っております。特に、地域子育て支援拠点や、患者やその家族の暮らしぶりから健康問題を知ることができる薬剤師、訪問看護師という医療専門職も参加していることが特徴となっております。令和7年度は、2歳児歯科健診や胸部レントゲン検診など市が実施するけんしん会場だけではなく、水島地区愛育委員会から声をかけていただき、愛育健康まつりを開催する中で、健康づくりの啓発が実施できました。年4回の地区推進会議の中では、水島地区の現状を話し合ったり、水島地区に長く勤務されている呼吸器専門医師による講話を設け、「ひろめ隊」メンバーの各所属からみえた水島地区の強みと健康課題に関する意見交換を行い、専門医からモチベーションを上げてもらいました。各団体がそれぞれの強みを生かした活動を積極的に取り組んでいる中、今後も、ライフコースアプローチの視点と健康づくりを支える地域の環境づくりについても協働して取り組んでいけるよう、継続的に働きかけていきたいと思っております。各地区推進会議の取り組み報告は以上でございます。

事務局

健康づくりを支える地域の環境づくりの観点で、地域に根ざした健康づくり、食育の推進については、関連団体、市役所関係部署等との取り組みが不可欠であると考えております。以上で、令和7年度事業報告を終わりますが、この他の委員の皆様から御報告いただいた取り組みについては、こちらの「令和7年度事業報告令和8年度事業計画」冊子に掲載しておりますので、詳細はお目通しください。ここで一点、冊子の内容に訂正がございます。冊子の11ページをお開きください。中央下部にございます3ベジ推進店キャンペーンについての記載がございます。3ベジ推進店キャンペーンの実施期間につきまして、令和7年7月11日から、となっておりますが、正しくは令和7年6月11日から、となります。お手元の冊子の修正をお願いいたします。以上でございます。よろしくお願いいたします。

会長

ありがとうございました。市民の皆様と協働しながら工夫し、関連団体と共に、健康づくりを支える地域の環境づくりに取り組まれておられる様子がうかがえました。令和7年度事業報告を受けまして、何か御質問等ございましたらお願いいたします。

委員

3ベジ推進店キャンペーンですが、3ベジ推進店の認定に何か条件があるのかという点と、3ベジメニューとはどうなればメニューだと認定するようなものがあるのか。最後に令和6年から令和7年度にかけて店舗数が2店舗減っていますが、それには何か理由があるのかを教えてくださいませんか。

事務局

御質問ありがとうございます。まず、3ベジ推進店の登録についてですが、こちらは、先ほど御説明させていただいた3ベジに沿ったメニューの提供ということで、「ベジわん」という最初に野菜を食べる工夫として、つきだしやサラダなどのメニューの提供、「ベジもぐ」というのが、しっかり噛むような工夫として、噛み応えがあるようなお野

2つ目の3ページメニューについては、先ほどの説明のとおり、3ページに沿ったメニューになります。最後に、3ページ推進店が2店舗減少したということについては、飲食店として、メニューの変更があるなど、「ちょっと実施が難しくなった」というような御意見をいただくこともあり、店舗数が減少したという経緯がございます。しかしながら、市の方でも公募以外に、飲食店に個別に声掛けさせていただき、今年度は少し店舗数が増加しております。

委員 市議会です。3ベジについてなんですが、「ベジわん」「ベジもぐ」「ベジもり」ということで、先ほど「ベジもぐ」で噛み応えのある野菜の提供というお話がありました。噛み応えのある野菜ということで、私的にはどのような食事でもよく噛んでゆっくり食べるという認識だったのですが、3ベジメニューの「ベジもぐ」は噛み応えのある野菜の提供ということでよろしいでしょうか。

会長 ありがとうございました。他にいかがでしょうか。それでは、最後の議事となります。
令和8年度事業計画案について、事務局から御説明をお願いいたします。

議事1でも御説明させていただいた倉敷市の健康課題である糖尿病や高血圧症

の予防、重症化予防に効果的な「運動習慣」の指標である「1回に30分以上運動する日が週2日以上ある人の割合」ですが、ここ数年、4割前後で推移しております。年代別でみると、特に20～50歳代が他の年代に比べて、少なくなっております。ライフコースアプローチの観点からも、健康づくりが後回しになりがちな“子育て世代、働き世代”が、無理せず、楽しく、健康づくりに取り組み、運動習慣が定着できるような働きかけが必要です。

議事2でも報告させていただきましたが、くらちゃん健幸アプリ利用者の平均歩数は、アプリ開始後、増加傾向にあり、多くの方にアプリを利用いただくことで、倉敷市民の歩数の増加につながると考えられます。さらに、運動習慣の定着のためには、利用者が飽きることなく、アプリを用いた健康づくりが習慣化することを後押しする必要があります。令和8年度は、アプリ利用の周知を図るだけでなく、利用者のいっそうの歩数増加、アプリを用いた健康づくりの習慣化を目指してアプリを運用していきたいと考えております。その一つが、期間を設けて、アプリ内の仮想コースを歩くウォークラリーイベントの開催です。イベントとしてゲーム性を高めることで、健康づくりに関心の向きにくい方にとって、アプリによる健康づくりに取り組むハードルが下がればと思っております。また、くらちゃん健幸アプリは、運動分野だけでなく、睡眠時間、体重、食事内容の記録機能もあり、記録によりポイントも貯まります。「健康づくりに向けた7分野での取り組み」の令和8年度事業計画である「自らの健康状態に関心をもつ」ことについても、くらちゃん健幸アプリを通じて取り組めることを関係機関・関連団体と協働して啓発できればと思います。“子育てや仕事”で健康づくりに関心の向きにくい20～50歳代のアプリ利用者数が増加するよう、職域を中心とした地域の関連団体、関係部署との連携による周知強化に努めます。

続いて、地域の関連団体と連携した「くらしき3ベジプロジェクト」の推進について御説明します。8月31日が「野菜の日」ということを御存知でしょうか。令和8年度は、この野菜の日にちなみ、8月を“いつもよりしっかり野菜を食べる『3ベジ月間』”として、3ベジプロジェクトの積極的な啓発を行う予定です。「3ベジしてる？」を合言葉に、家庭や職場、お店など、いろいろな場所で3ベジを広め、3ベジの認知度の向上ならびに3ベジの実践につなげていきたいと考えています。具体的には、昨年度に引き続き、「健康に関心の向きにくい方でも自然に3ベジを実践できる環境づくり」を目的に、食品衛生協会と連携して、3ベジ推進店でメニュー提供を3ベジ月間内に実施いたします。特に、くらしき食育フェアの開催地区である玉島での展開を強化し、昨年度よりも12店舗多い、市内26店舗の飲食店に御協力いただき実施する予定としております。3ベジ推進店の方に御協力いただき、3ベジメニューの店内掲示にナッジを活用いただくことで、気がついたら注文したくなる仕組みを行います。また、3ベジ月間内の啓発として、市内5地区の図書館で、野菜摂取や糖尿病・高血圧症予防にちなんだ特集展示も行います。

また、先ほど触れましたが、食育フェアも3ベジ月間中に開催いたします。食育フェアは長年、倉敷地区で開催しておりましたが、令和8年度からは、開催地区を固定せず、どの地域にお住まいの方でも参加いただけるよう、1年ごとに地区を巡回して実施することとしております。令和8年度は玉島市民交流センターでスライドのとおり、

開催いたします。巡回実施になることで、参加いただく関連団体の方々も、玉島地区から多く御参加いただいております、より地域に根付いた食を支える環境づくりにつながると考えております。また、若い世代や健康に関心の向きにくい幅広い市民の参加を促すため、今年度は、学校、園に向けても周知協力依頼をさせていただいております。食育フェア含め、3ページ月間について、さらなる周知が必要と考えておりますので、普及効果が狙える方策等について、皆様方の御意見を賜りたいと思っております。以上で、令和8年度事業計画の説明を終わります。

会長

ありがとうございました。令和8年度事業計画案について、御意見等お願いしたいと思えます。特に、昨年度の審議会でも協議されていくらちゃん健幸アプリですが、ライフコースアプローチの視点で、幅広い年齢層、特に子育てや仕事等で健康づくりが後回しになりがちな30～50代の方に、積極的に使っていただきたいと考えておられるとのこと。多くの市民に使っていただくために、委員の皆様方の忌憚のない御意見を願います。また、せっかくですので、所属団体での普及啓発や連携についての御提案をいただけますでしょうか。商工会議所中濱委員いかがでしょうか。

委員

倉敷商工会議所でございます。当所は市民の方というよりは、御商売をされている方々に対してサービスを提供しております。昨今、私どもでも問われているのも従業員さんに長く元気に働いていただくという観点から、やはり健康経営というところ。私どもも健康診断を従業員さん向けにやっておりますが、そうしたところで健康経営に積極的に取り組んでいらっしゃる経営者様、企業様には健診受診料を多少なりともお安くさせていただいて受診をしていただいております。また、企業様もいろいろな健康づくりを努力をされていらっしゃいますので、そういった事例を御紹介しながらのセミナーも同時にさせていただいております。くらちゃん健幸アプリの普及については、保健所からお声かけいただいた時は、セミナーの際に、アプリをPRしていただく時間を設けるであるとか、普及に向けての御協力は可能なかなとお聞きして感じていました。また、3ページ推進店の店舗については、拝見したところ、ネガティブな話ではなくて、非常にチェーン店が多いなと思いました。地場にもたくさん良いお店というか、美味しいお店もありますので、協力いただける店というのは出てくるのではないかと感じた次第です。我々商工会議所は、児島、玉島、真備、あと茶屋町にも団体がございます。先ほど申しましたように事業者様が相手なので、当然我々は飲食店様の情報というのは大なり小なり持っております。例えば、そういう話をいただけるのであれば、もう少し地元の色々な食堂や飲食店など、まだまだたくさんのお店があると思えますので、そういったところへの声掛けに対してもちょっとお力添えというか連携というのはできるのではないかとお聞きして感じていた次第でございます。以上です。

会長

ありがとうございます。倉敷労働基準監督署の方、いかがでしょうか。

委員

労働基準監督署は雇う、雇われるという関係、職域が対象ということになります。労

うちの方でこちらの倉敷市健康増進計画・食育推進計画のところで何か協力できることを考えてみると、くらちゃん健幸アプリとか、あるいは8月は3ベジ月間ということで、目を引くチラシを作られているようなので、こういう資料を提供いただければ、監督署の相談窓口であったり、パンフレット棚等に配置して、それを来署された事業主、労務管理担当者、あるいは労働者の方も含めて見ていただいて、結果的に活動の周知につながるのかなと思います。そういった面では協力できるでしょうし、していきたいなと感じたところです。以上でございます。

委員 医師会の方ですが、だいたいは座ってずっと仕事をしているものですから、人には「歩け歩け」「運動しろ」と言っているのですが、自分自身は運動とは縁遠いところにいると少し反省しております。うちの職員もこのくらちゃん健幸アプリを使っている人がおり、「何千歩歩いたよ」とあるとか、話題になっています。しかしながら、小さな医院なものですから、もっと医師会の方でも広める努力をしたいと思います。

倉敷市内歯科医師会です。くらちゃん健幸アプリの件ですと、昨年度も歯科的な内容について、ちょっと質問させていただきました。20歳、30歳、40歳、50歳、60歳、70歳の節目にある歯周病検診を受けると、けんしんとしてポイントを獲得できるというような情報をいただきまして、このアプリ私もちょっと入れさせていただき、歩数を見たりとか、非常に楽しく使わせていただいております。保健所の方から3ページプロジェクトと合わせて、詳しく歯科医師会の方で集まりがある時に説明をいただいたりして、診療所各所のところにもチラシを置かせていただいたりしております。

委員 薬剤師会です。薬局の店頭で、健康診断を受けましょうというのは積極的に推進

するようにしております。それによってコレステロールの薬を飲んでいた方が、健診結果が良くなったとか、そういったことも判断できますので、店頭で健康診断の啓発を行っております。あとこのくらちゃん健幸アプリですが、以前、私もダウンロードを手伝っていただいて入れました。普段、これくらい歩いているんだな、と思って使っていたんですが、ある時、500円のデジタルギフト券が当たりました。そうしたら、すごく励みになって、もっと歩かないといけない、と思いました。やはり、いろいろなものがかかってくると思うとすごくやる気が出るなと思いました。薬局の社内対抗で、歩数を競う期間というのが1か月くらいあります。その中で、1位になるとお茶が1ケース当たりますよ、とか言われると、もう結構みんな必死で歩いています。もう朝の5時から歩いている人がいたり、会社から家までを、普通だいたい車で10分、20分かかるところを歩いて来られる方もおられたりして、なんというか、やっぱり欲につられて頑張れるんだなっていうのを思います。アプリのこの500円分のデジタルギフト券というのは何パーセントの確立で当たるんですか。

事務局

現在、利用者の方が増えてきておりまして、なかなか抽選が当たらないという御意見をいただいております。今年度は、毎月300名の方に抽選が当たるようになっております。今利用者が8,000人くらいというところで、この8,000人全員が毎月1,000ポイント達成しているわけではないのですが、当選率としては、そのような形で低い状態になっております。1年間で1度も当たらなかったという方はお会いしたことがないので、1年の間に1回か2回くらい当たったらいいかな、というくらいのお楽しみで御利用いただけたらと思っております。

委員

ありがとうございます。では、また引き続き頑張ります。

会長

それでは、その他いかがでしょうか。

委員

市民公募で参加の機会をいただきました。普段の仕事は、スポーツクラブですとか、高齢者施設、カルチャーセンターなど、いろんなところで運動の指導や栄養の講座をしております。今日、計画の理念を見せていただいて「誰ひとり取り残さない健康づくり」ということで気になったところがあります。スポーツクラブとかそういった施設に出向いてくれる方というのは、やっぱり健康の意識が高い方ばかりで、そういう方しか来ないなっていうことを感じています。どうしたらそういったところに出向いて来られない方たちを健康に導けるのかっていうのが一番課題なんじゃないかなってすごく思っています。アプリの普及ももちろん素晴らしいことだと思うんですけども、そういったアプリとかも全然使わない方もたくさんいらっしゃいますし、どうしたら関心がない方たちを少しでも取り込めるかということが気になっているところです。

玉島地区の活動報告見させていただいて、健診の待ち時間を利用してというところがすごくいいなと思いました。私、倉敷中央病院のカフェによく行きますが、その受診の時間を待っている方たちの多さと、その方たちがすごく退屈そうにされている場面をよく見るので、病院で受診を待っている時間とかに何か映像とかで軽く体を動か

したりですとか、健康に関する啓発を流してあげたらどうかと、個人的に思っています。あと真備地区の“睡眠”を切り口とした啓発というところなんですけど、このくらちゃん健幸アプリでも睡眠の時間を入力するところがあるみたいですが、結構スポーツクラブでお客さんと話していると、睡眠の質が悪い方がとても多いなと感じています。何時間おきに起きてしまったりですとか、寝ている時に足が攣ってしまったりですとか、そういう不調を抱えている方がとても多いので、睡眠の時間だけじゃなくて、どうしたら睡眠の質が良くなるのかということをもう少したくさん市民の方に知っていただく機会があったらいいなと思っております。

あと、3ページの活動とてもいいなって思うんですが、個人的に、果物って切ったりしなくても食べられたりとか、洗わなくても皮剥けば食べられたりとか、すごく手軽に取り入れられて、野菜と同じくらい健康に必要な食材だと思っているので、その果物をもっと食べましょうという活動もあってもいいのかなと思っております。果物は耐糖能を改善する食材と言われているので、もっと色んな方に食べて欲しいと思っています。果物は、食べると太るって思っていたりとか、糖質が多いからあまり食べない方が良くとお医者様に言われている方もいるって聞いて驚いたことがあります。果物を食べることで、糖質を代謝する能力が上がっていくと言われているので、果物は本当に食べて欲しい食材の一つです。

長くなってしまいましたが、私は一個人として、施設に来てくださる方に指導することしか今はできていませんが、もし、いろんな方と連携して様々なところに出向いて御協力できることがあればもう何でもしようと思っておりますので、ぜひ何かあれば機会をいただいてお声掛けいただけたらありがたいです。

会長

ありがとうございます。ただいまいただきました件につきまして、事務局の方から何かありますでしょうか。

事務局

ありがとうございます。健康日本 21 第三次、国の健康増進計画の方では果物の摂取量を上げるということが目標に定められておりますので、本市としても果物の積極的な摂取については、3ページとともにお伝えしていきたいなと思っております。「くらしき健幸プラン」冊子の48、49ページを御覧いただきますと、「くらしき健幸プラン」の各指標を目標値とともに掲載しております。その49ページの一番右下に、「適正な量の果物を摂取している人の割合」として、指標の関連項目に位置付けております。「くらしき健幸プラン」の指標の一つではございませんが、中間評価の折にもきちんと確認していくというような形で果物の摂取については定めさせていただいております。

また、幼児健診や2歳児歯科健診での受診者に対する啓発というのは、玉島地区だけでなく、現在、他の地区でも取り組んでいるところでございます。小池委員がおっしゃるように、やはり関心を持たれてない方に対してどのようにアプローチするのかというところがとても重要だと本市の方でも認識をしておりますので、今後もそういった機会をより活用していけたらと考えております。以上でございます。

会長

ありがとうございます。それでは、次の話題ですが、8月31日が野菜の日になん

で、今年度は、8月を野菜をしっかりと食べる強化月間として取り組んでいく「3ベジ月間」を予定されておりますけども、この点についていかがでしょうか。

委員

川崎医療福祉大学臨床栄養学科です。私は日頃、管理栄養士の養成を大学の方でしておりまして、倉敷市保健所の皆様とは「イオン de くら★けん」などのイベントで大変お世話になっております。3ベジについてですが、少し気になっていたところは、この月間の時には、参加店等と、いろいろな周知、広報があるのかなと思って見ているのですが、それ以外の日頃の取り組みについてが少し気になりました。例えば、先日「イオン de くら★けん」のイベントがあった際に、イオンモール倉敷店の飲食店で食事をしました。ちょうどこの3ベジ推進店チラシを拝見し、「ここが野菜を多く摂れるからここにしよう」と選ぶきっかけになったのですが、店内にはどのメニューを選べば野菜を多く摂れるかといった掲示がありませんでした。8月になったらそういう掲示があるのでしょうか。8月以外にも、日頃からそのような掲示をお願いできれば、利便性の面でも、「これを食べたら良い」ということが示されていると、市民の方も選びやすいのかなと感じたのが一点です。もう一点は、この3ベジ推進店のチラシについても、小中学校などを通じて保護者に伝わるような配布は検討されているのでしょうか。そのあたりを教えていただければと思います。

事務局

御質問ありがとうございます。まず一点目の、3ベジ月間以外の期間における野菜摂取の推進や、登録店舗での掲示についてです。3ベジ推進店には、お野菜の多いメニューをその月に設定していただいております。例えば、夏であれば夏野菜を使ったメニューといった形で決めていただいております。8月の3ベジ月間に向け、7月中旬以降には、ポスターの掲示やチラシの設置を各店舗をお願いしている形になります。先日、市議会の方でも御質問をいただきまして、強化月間という形だけでなく、年間を通じた啓発についても御要望いただいております。今後、年間を通じた広報や取り組みについては検討してまいりたいと考えております。また、推進店舗ではお野菜をしっかりと摂れるメニューのチラシを店舗ごとに作成しており、先ほど出ました「ナッジ(肘で軽く突くように、自然に選択を促す手法)」の考え方を活用し、自然にメニューをお勧めできるような店内掲示や、メニュー表などの掲示物の工夫も実施している次第です。

二点目の小中学校への周知 PR についてですが、「パワフルキッズ」という小中学校の保護者向けの電子チラシがございます。そちらに記事を掲載する予定としており、食育フェアと合わせて3ベジ月間の内容も保護者の皆様にお伝えできるような形とさせていただきます。小中学校の先生方には御協力いただきまして、ありがとうございます。

会長

ありがとうございます。農業協同組合の方からはいかがでしょうか。

委員

晴れの国岡山農業協同組合倉敷アグリセンターです。当センターは連島地区にありまして、連島はごぼうやレンコンなどの野菜の産地として知られております。地元

小学校を対象に、特産品である連島ごぼうやレンコンの PR を兼ねて、生産者の方と協力して、栽培・収穫に関する座学を学校で行ったり、抜き取り体験を企画したりすることで、地元の農産品に深く関心を持ってもらえるよう活動しております。

3ベジ推進店についてですが、うちのエリアは先ほどお話した連島地区、いわゆる水島エリアなんですけど、見てみますと、倉敷地区に比べて参加店舗が少ないな、と。水島地区にももっと飲食店があると思うが、少ないように感じました。この参加する仕組みと言いますか、募集や声掛けは、どのように行われているのでしょうか。

事務局

3ベジ推進店の募集についてですが、今年度は広く公募を実施いたしました。それ以外に、昨年度の食育フェアにおいて来場した方へ、アンケートを実施しております。昨年度は3ベジ推進店を利用した方が抽選に参加できる仕組みにしておりましたので、食育フェアでの抽選会の場で「市民の皆様がおすすめする、お野菜がたっぷり食べられるお店」を教えてくださいました。そのアンケートで挙がった店舗に対し、職員が直接お声掛けをさせていただき、御協力いただけるというお返事をいただいたお店にも、今年度御協力をいただいております。

会長

栄養士会の方からいかがでしょうか。

委員

岡山県栄養士会倉敷支部です。今年初めての審議会参加となります。前任者の方から栄養士会としてはどういった活動を、というところをお聞きしましたら、食育フェアで、市民の健康づくりを目的に、食品ロス削減とか食育活動、野菜摂取や健康づくりの啓発を行っています、と伺いました。食育フェアの大切さ、ここでの伝え方ということについて、倉敷市では色々なことを取り組んでいるんだなというところを本日認識していたところなんです。今年度も8月22日の土曜日に食育フェアの方が開催されるにあたって、今年は玉島市民交流センターで行われるということで、栄養士会の方では、野菜も大切なんですけど、バランスの大切さについて、ランチョンシートを使用しての食育体験、それと「はてなボックス」を使用して食材を当ててもらおうというようなクイズの準備にとりかかっています。

あと、この3ベジ推進店も、メニューに何がどういう風に入っているのかというのがもっと見える化されたらいいな、と感じております。以上です。

会長

ありがとうございます。栄養改善協議会の方はいかがでしょうか。

委員

栄養改善協議会でございます。3ベジプロジェクトとかアプリについては、こどもから高齢者の方まで、企業にも啓発に入らせていただいております。あと高校、大学、小中学校へも入らせていただいております。食の大切さとか、若いお母さん、お父さん方の健康に関してもお話をさせていただいております。

私たちは、食育フェアを今までアリオ倉敷の方でずっとやってきていました。先ほども病院の待ち時間を利用した啓発について言われていましたが、私たちも、無関心層をターゲットにとずっと考えていております。今まで食育栄養まつりを食育フェアと

会長 ありがとうございます。それでは学校の方から。小学校長会の方、いかがでしょうか。

小学校の方ですが、授業での食育はもちろんですが、本校ではつい先日、学校保健委員会を開いて、学校医の先生方、保健師さん、栄養士さんをお迎えして、保護者の方、そして職員も一緒に考える機会を持たせていただきました。保護者だけではなく、こどもたちも一緒に生活を良くしようということで、去年は睡眠の質を上げようということをしました。すると、山の学習で、こどもが「今から睡眠のルーティーンしよう」と言って、寝るための準備、心と体の準備をするということをしていて、「あ、習慣化になってきているな」というのを実感しました。今年は睡眠だけじゃ足りないな、やはりこういうことも学んでほしいということで、睡眠の習慣化、食事についての習慣化、運動遊びについての習慣化、歯磨きについての習慣化、そういう習慣化にする、自分をしっかりと見つめるという、体によいことをしようということについて話をしました。小学生の間から、自分の体を自分で気にする、ということが成長につながる、自分の体に必要なものを体験を通じて考える機会を設けたいと考えております。

会長 ありがとうございます。それでは中学校長会の方はいかがでしょうか。

18

あります。自分で弁当を作って写真に撮り、この献立の素晴らしさをアピールするというのがありますので、その中で野菜が入っていないと、絶対入賞しないので、野菜を入れて、彩りよく、これはお母さんの手が加わっているなども感じながら、家庭科の教員がいつも審査に困っているのを見ております。

それから昨年度、本校に認定スクールトレーナーを3回お招きして、怪我を予防するための体の使い方ということで、運動部を対象に1回、文化部を対象に1回、最後は3年生含めて全校でやりました。その時は準備運動の大切さ、ということでやりました。今日、養護教諭とは、夏は整理運動というか、クールダウンをどうやってとっていくかということで、クールダウンをしっかりとさせて、こどもたちを安全に帰すことなどについて話をしたところでございます。

あと今日の話で行くと、特別支援の生徒たちが「ポスターを貼らせてください」と職員室にきました。「マルシェ」というのを本校のこどもたちがやっていて、コーヒーやお菓子など自分たちで作ったものを売っているんですが、とうとう、野菜の販売が始まったところでございます。私3年目なんですけど、過去2年間は、去年の夏まで本校に調理場があったものですから、年に1回特別支援の子たちが作った玉ねぎが大量に入ったハヤシライスを食べるというのが本校の名物でした。それが今年ではできないということで、手広くいろんな野菜を育てて販売しております。身近に野菜を育て、そういう形で地域の方にも喜んでいただけたらということもあり、良いなと思っています。

最後、大戸屋さんへ僕はよく行きますが、僕がよく食べている肉野菜炒め塩麹味というのを3ページメニューにして欲しかったかな。野菜いっぱいなので、お願いしたいなと思いました。以上です。

会長

ありがとうございました。委員の皆さんからいただいた御意見や御提案を参考に、今後も様々な取り組みを推進していきたいと思っております。また、皆様令和8年度の事業計画案について、拍手にて御承認いただけますでしょうか。

(拍手)

ありがとうございます。それでは、承認とさせていただきます。冊子表紙と裏表紙の事業計画案の案を外していただきたいと思います。よろしく願います。最後に、委員含め、本日御出席の皆様から情報提供があれば、お願いしたいと思います。市役所関係課の方から、情報提供がございましたでしょうか。

健康長寿課

失礼いたします。地域包括ケア推進室でございます。皆様、お手元にお持ちの冊子27ページを御覧いただきますと、地域包括ケア推進室の取り組みを記載させていただいております。そちらでも御紹介させていただいております「まるっとケア」の最新版を本日お持ちしております。また、「ふたたび」というチラシもお手元に御準備いただけますでしょうか。どちらにも記載させていただいておりますが、地域包括ケア推進室は、お年を重ねてこられた方でも、住み慣れた場所でその人らしく生活を続けられるような元気な人を増やそうという取り組みをしております。本日、皆さまが熱心に議論していただきました「健康で居続けるための取り組みや食事を美味しく食べ続けるための取り組み」は、当室の中でもとても大事なことで認識しております。

「ふたたび」という方のチラシの方には、「リエイブルメント」について御紹介をしております。聞き慣れない言葉かとは思いますが、書かれている通り「できなくなったことをお世話するという考え方から、できることをしっかり続けていこうという考え方」となります。年を重ねても、日常生活をこれまで通り続けていくための必要なスキルを学習するところや、ちょっと機能が衰えたかもしれない御高齢の方でも、元気になりたいという気持ちを優先し、これまで通りの生活が送れるようになる、“してあげる”の支援ではなく、御本人がまだ“何々したい”という気持ちを大切にしたい生活を取り戻すことを目指している支援について御紹介をしております。こちらの二次元コードの方から、ダウンロードしていただいて動画を見ていただきますと、紆余曲折ありながらも、老いてからでも、機能をとりもどすことをあきらめなければ、成田山に行けるようになるという、とても素敵なストーリーを御覧いただけるかなと思います。ぜひ御覧ください。地域包括ケア推進室からの御紹介は以上になります。

農林水産課

失礼いたします。農林水産課でございます。農林水産課ということで、地元の食材、野菜だけではなくて、地産地消という観点からこちらの方に参加をさせていただいております。今年度の事業内容といたしましては、11月の29日に農業祭を玉島の森の方で実施をさせていただこうと思っております。現在計画中でして、毎年30数事業者の方に来ていただいていたイベントという形でさせていただきます。今年も盛大にできたらなと思っております。あとは、これは倉敷市だけではなくて高梁川流域の事業としてさせていただいているものですが、親子で参加していただきます漁業体験というのを毎年7月、10月ですね。7月分に関してはもう募集が始まっているんですけども、こちらの方を児島の方でさせていただこうと思っております。だいたい親子15組くらいで、あまり多くはないんですけども、年2回実施させていただこうと思っております。

あと、今年は夏に倉敷駅周辺で、高梁川流域の美味しいもの、農産品、畜産品、そういったものを集めた『農マルシェ』というのをさせていただこうと思っております。こちらは今日お越しになっています晴れの国岡山農業協同組合さんの多大なる御協力をいただいて、実施したいと思っております。また情報を流させていただこうと思いますので、皆様御参加いただければと思います。農林水産課からは以上です。

保健体育課

失礼いたします。保健体育課です。今開いている冊子の29ページを御覧ください。右上に保健体育課というのがあります。保健体育課では、小中学校での児童生徒への食育の推進ということで参加させていただいております。学校での食育の推進ということで、栄養教諭や学校栄養職員による食に関する指導や、学校給食を通じて子どもたちに食育というのを推進しています。倉敷市では自分の学校で給食を作っている自校式の学校と、共同調理場から配送される学校というのがあるんですけども、どこの学校であっても同じようにバランスのとれた給食を食べて、栄養士、栄養教諭などから同じように食に関する指導が受けられるようにということで、冊子の左下にある倉敷中央学校給食共同調理場と連携して、また、各学校の栄養士と連携しながら学校給食の献立であったり、この献立の時にはこの資料を使ってこういう啓発をしようというものを月に何回か立てているんですけども、どこの学校に行っても同じような啓発

ができるように、食育を推進できるようにということで、共同調理場や色々な学校の栄養士と一緒に考えております。

お配りしている資料、青色の「学校給食調理場裏側見せますツアー in 児島」という資料を御覧いただきたいんですけども、こちらは7月18日、夏休みに入っすぐらいになるかと思うんですけども、倉敷市内で一番新しくできた児島の学校給食共同調理場の中を見れるというイベントになります。こちらは、中を実際に見るツアーは予約が必要になっておりまして、左下にある電子申請を御利用くださいというのがちょうど今が受付期間になっております。お子さんに限らず倉敷市在住の方でしたらどなたでもお申し込みができますので、よければ給食気になるなという方はぜひ御応募いただければと思います。その裏側にInstagramの二次元コードを貼っているんですけども、保健体育課の方では、平日毎日、学校給食の方をInstagramでアップして御紹介しています。なかなか給食ってこどもがいなかったりすると見たりする機会がないかと思うんですけども、こちら毎日基本的に発信しておりますので、ぜひ御覧いただければと思います。保健体育課からは以上になります。

会長

ありがとうございます。それでは事務局の方からはいかがでしょうか。

事務局

事務局から失礼いたします。本日の事業計画でも紹介させていただいた「くらちゃん健幸アプリ」、「3ベジ推進店」、「くらしき食育フェア」についてのチラシをお手元の方にお配りしております。食育フェアについては、本日御出席いただいている委員の方々の所属団体とともに作り上げることができ、感謝しております。当日もよろしくお願い致します。本日、周知用のチラシを用意しておりますので、ぜひ御所属からの周知に協力いただき、当日もお立ち寄りいただけると幸いです。くらちゃん健幸アプリについては、チラシの他、ポスターも用意しております。所属団体での御掲示が可能であれば、ぜひ、お持ち帰りいただけたらと思います。後ろに準備しておりますので、よろしくお願い致します。

会長

それでは、これもちまして本日の倉敷市健康増進計画・食育推進計画審議회를終了いたします。円滑な議事進行に御協力いただき、ありがとうございました。では、事務局へお返しします。

3 閉会

事務局

協本会長、ありがとうございました。それでは閉会の御挨拶を、保健所参事の佐藤より申し上げます。

事務局

保健所参事の佐藤でございます。委員の皆様、長時間にわたる御審議、大変お疲れ様でございました。本日は倉敷市の健康増進計画と食育推進計画であります「くらしき健幸プラン」の、令和7年度事業報告および令和8年度の事業計画につきまして、様々な貴重な意見を賜り、また御承認をいただきました。誠にありがとうございました。この「くらしき健幸プラン」ですが、令和6年度から17年度までの12年間にわた

る長期の計画になります。今後とも計画の理念であります『みんなでつくる元気なくらしき～誰一人取り残さない健康づくり～』の実現に向けまして、全力で取り組んでまいりたいと考えておりますので、皆様方におかれましても引き続き御支援、御協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、閉会の挨拶とさせていただきます。改めまして本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。

事務局

本日の審議会は以上で終了となります。皆様お気をつけてお帰りください。本日は長時間ありがとうございました。

令和8年⁸~~7~~月10日
倉敷市健康増進計画・食育推進計画審議会
会長 藤本 敏裕